



外部評価報告書

国立大学法人 鹿児島大学

平成21年6月

目次

はじめにP 1

外部評価報告書P 2

鹿児島大学外部評価実施概要

- 1 国立大学法人鹿児島大学外部評価に
関する実施要項P16
- 2 平成20年度 国立大学法人鹿児島大学
外部評価実施要領P17
- 3-1 外部評価資料一覧P19
- 3-2 追加資料(当日配付資料)一覧

はじめに

鹿児島大学は、高等教育の機会均等と国土の均衡ある発展を意図し、北辰斜めにさすここ鹿児島に位置する総合大学であり、人類社会の発展の基礎となる「知の創生とその継承」を使命とする「知の拠点」です。

今年、平成16年度に国立大学が法人化され、新たに国立大学法人鹿児島大学としてスタートした第一期中期目標・中期計画期間の最終年度となります。第一期では、教育・研究・社会連携等、各分野において様々な活動を通し社会に貢献して参りました。昨年度は、国立大学法人評価委員会による中期目標期間評価が実施され、今年3月に評価結果が公表されたところであります。

平成22年度からスタートする第二期中期目標期間においては、第一期の実績を踏まえ、政府の高等教育施策等に配慮しつつ、機能別分化など大学の個性のある目標・計画の策定が求められております。そのため、本学では外部評価を実施し、国立大学法人評価委員会の評価結果とともに、外部評価結果を第二期中期目標・中期計画策定の参考とすることとしました。

今回の外部評価の特徴は、県内の教育機関の他、金融機関や報道機関、県内企業の経営者など幅広い分野の学外有識者により委員会を構成することで、多面的な意見を求めたこととあります。これにより本学の優れた点とともに改善すべき諸課題についてもご指摘いただきました。

本学では、この評価結果を貴重な意見として、今後の大学運営に活かしていく所存でございます。

座長を務めていただきました竹田靖史放送大学鹿児島学習センター所長をはじめとする評価員の方々には、ご多忙の中本学のためにご尽力いただき心から御礼申し上げます。

平成21年6月

鹿児島大学長 吉田 浩己

Ⅱ 外部評価報告書

外部評価報告書

平成 21 年 5 月

鹿児島大学外部評価委員会

目 次

．座長総括評価	．．．．．	P 1
．項目別評価		
1．教育に関する目標	．．．．．	P 3
2．研究、社会連携、国際交流等に関する目標	．．	P 5
3．業務運営の改善及び効率化に関する目標	．．．	P 7
．その他個別意見	．．．．．	P 9
．第二期中期目標・中期計画（草案） に対する意見	．．．．．	P10
．外部評価委員会評価員名簿	．．．．．	P11
．外部評価委員会開催状況	．．．．．	P12

I. 座長総括評価

座長 竹田 靖史

大学から示された平成20年度外部評価委員会資料（自己点検・評価書）をもとに、教育、研究・社会連携・国際交流等、業務運営の改善及び効率化に関する目標について、平成20年12月～平成21年2月の間に3回のヒアリングを行い、学長及び担当理事から真摯な対応と説明があった。また、平成21年4月に第二期中期目標・中期計画について、学長より鹿児島大学の将来構想に基づいた素案の説明があり、ヒアリングを行った。これらのヒアリングを踏まえ、各評価委員から意見を求め、それをもとに座長総括評価、項目別評価とした。

【評価される点】

教育、研究、社会連携等のいずれにおいても、鹿児島大学の立地特性を認識した特色ある取り組みが行われている。特徴的な事項としては下記が挙げられる。

- ・ 特色 GP「鹿児島の中に世界をみる教養科目群の構築」による地域特性に根ざした教育カリキュラムや教材の開発
- ・ 全国唯一の「離島へき地医療人育成センター」設置による離島へき地医療に貢献できる医療人育成の支援体制の充実
- ・ 屋久島、南九州火山、島嶼圏開発、新興感染症、長寿社会、機能性食品、食の安全等をキーワードとして、総合大学の特性を活かし、学部・研究科の枠を越えた全学的プロジェクトの推進
- ・ 奄美サテライト教室の展開による離島在住社会人への高等教育の機会提供
- ・ 鹿児島県全体をひとつの博物館と位置づける「鹿児島フィールドミュージアム構想」の推進
- ・ 奄美市、垂水市、与論町、徳之島町等の県内自治体等との連携協定締結による地域社会活性化への寄与

高等教育機関が果たすべき社会的貢献の様々な分野において、多角的で多様な取り組みが行われている。特徴的な事項としては下記が挙げられる。

- ・ かがしまルネッサンスアカデミーによる地域社会人へのリカレント教育の実施
- ・ 地域産業界において大きな問題である焼酎粕や廃液処理への取組（ゼロエミッション型の新規焼酎製造法の開発、焼酎廃液の飼料化、水産資源化など新たな取組）
- ・ 日本有数の畜産地域である社会の要請に応じ、農学部先端獣医学講座等の充実による地域問題解決への貢献

学長のリーダーシップの下、役員をはじめ全構成員の努力によりユニークな取り組みが行われている。特に大学創立以来、初めての多額な寄付で、新たな教育を目的に設立された「稲盛アカデミー」と「焼酎学講座」は高く評価できるものである。

【今後一層の努力を要する点】

中期目標・中期計画が細分化されているために、大学全体としての戦略性に乏しい。第2期中期目標期間においては、戦略性のある目標に基づく大学運営が期待される。

Ⅱ. 項目別評価

1. 教育に関する目標

【注目（評価）される点】

稲盛アカデミーは、共通教育で人間力の育成を図るなど、特色ある取組として高く評価できる。今後同アカデミーにおける教育の成果を客観的に評価し得る手法を導入し、教育の内容の改善・充実を図ることを期待する。

教育センターを中心にカリキュラムの改善、授業成果の検証など、教育方法の開発や教育改善の活動を積極的に進めていることは評価できる。

「焼酎学講座」や「かごしまルネッサンスアカデミー」等による地域人材の育成は、鹿児島大学の大きな特徴であり、高く評価できる。

共通教育科目の「キャリアデザイン」は、学生に対し入学時のできるだけ早い段階で学ぶ目的意識を持たせる点で、この選択科目の開講は高く評価できる。今後同科目については、必修化することが望まれる。

【改善を要する点】

就職支援体制の充実により就職率の向上が図られているものの、各種国家資格試験の合格者数及び合格率に着眼すると、その水準が低位なものがある。今後一層の努力が期待される。

学生の授業評価アンケートによれば、学生の予習・復習が不十分であり、改善を行うことが求められる。

外国人留学生の受入が、日本人学生の教育・研究効果に十分結びついていない。外国人留学生の受入が日本人学生の教育効果に結びつく仕組みを構築することが求められる。

【外部評価委員会からの意見（提言）】

鹿児島大学の卒業生は、真面目で優秀であるが、率先垂範し行動する意欲に欠ける者が見受けられる。チャレンジ精神に富み、行動力を持った人間力ある学生を社会に送り出す取組を積極的に行う必要がある。

教育に関する多くの取組がなされている一方で、その内容は総花的であり、それぞれが有機的に結びついているか検証することが必要である。教育は学問を体系的な一環で教え示すことが大切であり、それぞれの取組の有機的ネットワークの強化が求められる。

2 . 研究、社会連携、国際交流等に関する目標

【注目（評価）される点】

「不安への挑戦」として安全を脅かす問題の解決を目指した研究（BSE、鳥インフルエンザの研究や防災情報ネットワーク 等）の推進は評価できる。

焼酎粕の処理方法の開発、新たな麹の開発など地域特性を活かし地域に根ざした研究が展開されていることは大いに評価できる。

学長裁量定員の配置に際し、地域特性に着眼した分野において図られていることは評価できる。

地域住民による大学支援協力、卒業生との連携を深めるシステムの構築など特色ある取組がなされている。

国際戦略本部を設置し、国際交流を積極的に推進していることは評価できる。

【改善を要する点】

原著論文が大学における研究のアクティビティであるが、鹿児島大学の教員当たりの論文数は1報を下回る。原著論文は、科学研究費補助金等の外部資金獲得につながるものでもあり、研究費に給与を含めた論文のコストを考える意識改革が望まれる。

科学研究費補助金の受入は平成16年度と比してほぼ横ばいである。（平成16年度697百万円 平成19年度711百万円）科学研究費補助金予算はこの10年間で約70%増加していることを考慮すると、実質的には減少していると受け取れる。競争的外部資金の中でも最も基盤的である当該資金獲得への取組強化が求められる。

外国人留学生の受入はほぼ横ばいあるいは、漸減の状態である。（平成16年度344人 平成19年度316人）「留学生30万人計画」への対応も含め、留学生受け入れ体制の整備等、より積極的な方策を立てることが望まれる。

【外部評価委員会からの意見（提言）】

教員の研究業績評価については、文系・理系、あるいは専門分野が異なるため、同一基準で評価することは困難である。研究業績評価方法を工夫し、研究活動の活性化を進めることが求められる。

研究者が創出した知的財産の権利移転業務について、より積極的に鹿児島 TLO と連携を進め、財政的支援とともに活用を検討することが望まれる。

鹿児島大学の特色である「食」と「島嶼」について、フロンティアサイエンス研究推進センター、総合研究博物館、多島圏研究センター、生涯学習教育研究センター及び離島へき地医療人育成センターの有機的連携による研究の展開が望まれる。

鹿児島大学に在籍する約 300 名の留学生は、本国と鹿児島大学をつなぐ人材である。人口減少期におけるグローバル化の進展に向け、鹿児島大学は日本の南のゲートウェイである鹿児島における国際交流の場であり、留学生とのより緊密な交流を進める必要がある。

3 . 業務運営等に関する目標

【注目（評価）される点】

法人化を契機に経営協議会、学長諮問会議が設置されたことにより、寄附講座「焼酎学講座」の創設がなされたことは評価される。

センター等の統合により産学官連携推進機構を設置し、業務の合理化を図り、地域への貢献を進展させていることは評価できる。

学長裁量定員を有効に活用し、新たな研究科の設置や教育・研究センター及び学科の充実を図るなど研究の活性化を図っていることは大いに評価できる。

【改善を要する点】

業務運営改善の努力はうかがえるが、寄附金、受託研究等収入の増加には、なお、相当の努力を要する。

財務情報の提供について、できるだけ分かりやすくする工夫が求められる。

【外部評価委員会からの意見（提言）】

人件費削減についての努力は評価できるが、なお削減に向けた取り組みが期待されるが、これに伴う教育・研究意欲等の低下に配慮することも必要である。

民間企業と異なり利益至上主義の経営手法は必要ないが、莫大な税金が投入されていることを認識し、予算執行に的確な社会価値の説明責任を持つことが求められる。

受験生に支持されない学部（学科）・研究科は、費用対効果も考慮し、見直しを検討していく必要がある。

社会科学系（文系）分野における財務改善、効率化を測る指標は、今後さらに検討されるべきである。

鹿児島大学は社会に多面的に貢献をしているが、特に教育と研究の貢献度が高い。教育と研究のバランスは、大学・学部・研究科、さらには教育研究分野によって異

なる。鹿児島大学として、あるいは学部・研究科等としてどのようなバランスで取り組むかの方針を明確に打ち出し、構成員の理解の下に、役割に応じた資源配分を行うことも必要である。

学長のリーダーシップの下で、成果や業績評価による資源配分の方針を明確にするとともに、貢献度の高い成果等を積極的に評価するメッセージを発信することも必要である。

女性研究者の積極的な登用を推進するなどの男女共同参画に向けた取組がなされることが期待される。

NEDO の財政支援を受けた附属病院地区における ESCO 事業など、環境に関連した公的外部資金の活用による施設・設備の改修を今後も積極的に推進することが求められる。

Ⅲ. その他個別意見

【マスコミの活用について】

鹿児島大学は、地域特性のある研究等の成果が多くあり、積極的にその成果を広く地域社会に公表する責務を担っている。そのためにはもっと積極的にマスコミを活用し、地域社会との連携を拡げていく取組を行うことが求められる。

【評価のあり方について】

中期目標・中期計画に対する達成度を測るために評価を行うことは、当然に必要なことであるが、この点検・評価に費やす労力は大変なものがある。評価作業に追われることにより、本来の目的である教育・研究活動に影響を及ぼすことの無いよう、作業の効率化に向けた工夫が必要である。

【今後の法人運営について】

法人化後、教員、特に学長補佐や学内の主要委員会委員にとって、非常に多忙となっている。大学本来の目的である教育・研究活動に専念できる環境作りへの配慮を是非行っていただきたい。

IV. 第二期中期目標・中期計画(草案)に対する意見

「進取の気風あふれる総合大学」を目指すことは、特徴を出そうとしており非常に評価できる。鹿児島大学出身者は、真面目で優秀であるが、バイタリティに乏しいところがある。進取の精神を持つ人材の養成に注力して欲しい。

中期目標の「社会性・倫理観を涵養するボランティア活動の推進」について、近年倫理観を失った企業が見受けられる。ボランティア活動などを通じ、社会に倫理観のある人材を輩出できる教育体制を確立して欲しい。

私立大学と比較した場合に、鹿児島大学の就職支援体制は未だ十分とは言えない。第二期中期目標期間では、就職支援室の充実など、就職支援の強化を今まで以上に推進すべきである。

「島嶼」、「環境」、「食と健康」をキーワードにして、横断的な教育研究展開をめざす方向性を明確に打ち出したこと、またその核となる国際島嶼教育研究センター(仮称)の設置に向けた取組みは評価できる。

獣医学部の共同設置にあたっては、農・畜産県である鹿児島の地域特性に十分配慮し検討を進める必要がある。特に鹿児島大学では産業動物の獣医師養成が求められる。

基本目標のひとつである「グローバル化時代の人材養成」に関して、外国人留学生を受け入れるメリットのひとつは、日本人研究者・学生が外国人留学生と一緒に研究等に取り組むことにより、元来内向きである日本人学生等が、海外に行くことなく異文化と接し、視野が広がることにある。外国人留学生の受入が勉学、研究に好影響を与える仕組み作りを構築することが求められる。

中期計画「幅広い国際的視野を育成する実践的な教育の実施」について、留学生に対してだけ英語による授業を行うのではなく、日本人学生に対しても全て英語で授業を行う講座などの環境整備に取り組むことが求められる。

今後一層深刻になる少子化に対応するためにも、できるだけ分かりやすく鹿児島大学の基本目標やアドミッションポリシーを広報し、鹿児島大学の魅力を高校生に知らせるなど広報体制の工夫が必要である。

V. 外部評価委員会評価員

任期：平成20年10月16日

～平成21年 5月31日

赤坂 裕 鹿児島工業高等専門学校長

伊牟田 經久 前志學館大学長

江口 正純 元南国殖産株式会社社長

大野 芳雄 株式会社鹿児島銀行会長

(※任期：平成20年10月16日～平成21年 4月30日)

竹田 靖史 放送大学鹿児島学習センター所長

中村 耕治 株式会社南日本放送社長

は座長

VI. 外部評価委員会開催状況

- ・ 第 1 回外部評価委員会（平成 2 0 年 1 0 月 2 4 日）

外部評価委員会実施概要

- ・ 第 2 回外部評価委員会（平成 2 0 年 1 2 月 2 4 日）

鹿児島大学の活動状況に関するヒアリング

- 教育に関する事項 -

- ・ 第 3 回外部評価委員会（平成 2 1 年 2 月 1 0 日）

鹿児島大学の活動状況に関するヒアリング

- 研究・社会連携に関する事項 -

- ・ 第 4 回外部評価委員会（平成 2 1 年 3 月 3 日）

鹿児島大学の活動状況に関するヒアリング

- 業務運営等に関する事項 -

- ・ 第 5 回外部評価委員会（平成 2 1 年 4 月 1 3 日）

鹿児島大学第二期中期目標・中期計画について

全体まとめ

外部評価委員会実施概要

1 国立大学法人鹿児島大学外部評価に関する実施要項

国立大学法人鹿児島大学外部評価に関する実施要項

平成18年4月27日
役員会決定

(目的)

第1 この要項は、国立大学法人鹿児島大学評価実施規則（平成16年9月21日制定）第3条第3項の規定に基づき、国立大学法人鹿児島大学（以下「本学」という。）が自ら行う教育、研究、組織、運営等の状況の点検・評価（以下「自己評価」という。）の結果に基づき行われる学外の有識者による検証（以下「外部評価」という。）について必要な事項を定め、もって本学の教育研究の改善に資することを目的とする。

(定義)

第2 この要項で「学外の有識者」とは、大学に関し広くかつ高い識見を有するとともに、本学の教育、研究その他の活動に造詣の深い国、地方公共団体又は民間機関等の者をいう。

(評価員の委嘱)

第3 外部評価を行う学外有識者の評価員としての委嘱については、第4に規定する委員会の推薦に基づき、学長が行う。

(実施方法)

第4 外部評価は、国立大学法人鹿児島大学評価委員会（以下「委員会」という。）が自己評価の結果について、外部評価の実施が必要と認めた場合に実施する。
2 外部評価は、本学が開催する会議等において適宜意見を徴する方法等により実施することができる。

(評価結果の公表等)

第5 委員会は、外部評価の結果について、速やかに学内外に公表するものとする。
2 委員会は、外部評価の結果に基づき、改善が必要と判断する事項がある場合は、速やかにその方策を講じなければならない。

附 則

この要項は、平成18年4月27日から実施し、平成18年4月1日から適用する。

2 平成20年度 国立大学法人鹿児島大学外部評価実施要領

平成20年度 国立大学法人鹿児島大学外部評価実施要領

平成20年10月24日

1. 外部評価の目的

鹿児島大学は、国立大学法人鹿児島大学外部評価に関する実施要項に基づき、本学の教育、研究、業務運営等の状況について、本学の自己評価を基に学外の有識者による検証を行うことで大学運営の改善に資することを目的とする。

2. 外部評価の対象及び実施方法

本評価は、本学の教育、研究、社会連携等及び業務運営等の状況、並びに中期目標期間評価の評価に対する本学の対応を対象とする。

評価項目及び基本的な観点は別紙1「鹿児島大学外部評価に関する評価項目及び評価に関する基本的な観点」のとおりとする。

外部評価員は、自己評価書を基に評価を行い、その結果を「外部評価報告書」として取りまとめ、学長に報告するものとする。

3. 外部評価のスケジュール

本評価は、以下のスケジュールにより実施する。

平成20年10月 第1回外部評価委員会 外部評価の概要説明等

平成20年11月～平成21年3月 評価員によるヒアリング

平成21年5月 外部評価結果報告書完成・提出

4. 外部評価結果の公表及び活用

外部評価報告書は、本学のホームページ等への掲載など適宜な方法により速やかに公表するとともに、本評価結果を今後の本学の教育、研究、業務運営等に反映させる。

別紙 1

鹿児島大学外部評価に関する評価項目及び評価に関する基本的な観点

評価項目	基本的な観点
1．教育に関する事項	1-1 教育の成果に関する実施状況
	1-2 教育内容等に関する実施状況
	1-3 教育の実施体制等に関する実施状況
	1-4 学生への支援に関する実施状況
2．研究に関する事項	2-1 研究水準及び研究の成果等に関する実施状況
	2-2 研究実施体制等の整備に関する実施状況
3．社会連携等に関する事項	3-1 社会との連携、国際交流等に関する実施状況
4．業務運営等に関する事項	4-1 業務運営の改善及び効率化に関する実施状況
	4-2 財務内容の改善に関する実施状況
	4-3 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する実施状況
	4-4 その他業務運営に関する実施状況
	4-5 附属病院に関する実施状況
	4-6 附属学校に関する実施状況

3-1 外部評価委員会資料一覧

○資料

- ・自己点検・評価報告書(達成状況報告書)

○参考資料

- ・自己点検・評価報告書(ダイジェスト版)
- ・国立大学法人鹿児島大学中期目標
- ・国立大学法人鹿児島大学中期計画
- ・国立大学法人鹿児島大学平成20年度計画
- ・平成20年度鹿児島大学概要

3-2 追加資料(当日配付資料)一覧

○第3回委員会

- ・研究に関する事項の概要

○第4回委員会

- ・業務運営等に係る全体的な状況
- ・上記関連資料
 - 経営・管理体制
 - 学長裁量定員の配置状況
 - 常勤職員に係る人件費の状況
 - 自己収入の増加に係る状況
 - 経費の削減に係る状況
- ・決算報告書(平成16年度～平成19年度)一覧

○第5回委員会

- ・鹿児島大学第二期中期目標・中期計画(第一次草案)